

滋賀県甲賀市信楽町江田水害履歴マップ① 地理特性・S57年8月(台風10号)・H25年9月15-16日(台風18号)

■水害のメカニズム：A・B・C・D ■避難・水防活動 ■懸念事項 ■復旧活動 ■その他

■二つの水害に共通する被害

■平成 25 年 9 月 15-16 日 (台風 18 号)

2021(令和3)年12月1日に江田福祉会館、2022(令和4)年6月9日にDさん宅での聞き取り調査に基づき作成

0m 100m 200m

※昭和 57 年単独の被害情報の記載は無し

※平成 25 年の浸水範囲については情報収集中

信楽町江田地区外の被害状況は、本マップには含めないものとする

作成 関西大学 景観研究室 (甲賀市信楽町都市計画地図上に加筆)

水害のメカニズム

—信楽町江田で起こりやすい水害のパターンを A・B・C・D に分類—

A 大戸川関連

- A1 大戸川が増水すると、排水不良（バックウォーター現象）で徐々に浸水する。
- A2 良い子の橋付近で取水している用水路から溢水

B 中手川 (B1：左岸、B2：右岸)

- B1 用水の取水口で溢水しやすい。
- B2 ①堤防の低い箇所から溢水する。
②溢水した水が、Dさん宅付近に溜まり、浸水する。
③国道 422 号線の南側に広がった氾濫水は、現在は国道の地下の排水路（図中※印）から北側へ排水され、最終的には大戸川に排水される。
④大戸川が増水すると排水不良に陥り、一帯の田んぼが浸水する。

C 西側の用水路

- 大雨時には西側の山地に降った雨水が用水路を通り溢水する。

D 信楽川

- 信楽川が県道 138 号線（信楽上野線）とぶつかり流れが直角に曲がるため、砂が堆積しやすい。

被害概要

—平成 25 年・台風 18 号—

○9月 14 日～16 日の信楽地区での総雨量は 332.0mm となり、昭和 28 年多羅尾豪雨に匹敵する大雨となった。

○16 日の午前 5 時ごろには、全国初の大雨特別警報が発令された。

(気象庁彦根地方気象台：平成 25 年台風 18 号による大雨と強風について（第 2 報）、2013 年 9 月 17 日発表)

○信楽川、中手川、江田交差点付近の用水路が溢水し、浸水被害が発生した。

凡例 (河川・道路等)

■ 浸水範囲 (S57)

□ 水害時の懸念場所

→ 泛濫水の流れ

■ 堤（現存）

■ 堤（消滅）

■ 堤防（水害当時）

■ 河川（水害当時）

··· 旧流路

凡例 (建物)

□ 現存

□ 水害当時存在
(現存していない)

■ 床上浸水 (H25)

■ 床下浸水 (H25)

■ 床下浸水 (S57)

■ 他施設・住宅

■ 現在の避難所

懸念事項

標高が低いため浸水しやすい。

平成 25 年・江田福祉会館への事前避難

地区内で 1 名のみ、事前避難していた。

平成 25 年・道路の冠水

2 本の用水路から溢水し、江田交差点付近の道路が一時的に 5~15 cm 冠水した。

用排水路の堰

水路が溢れるのを防ぐため、大雨時には、農業組合の方や近隣住民の方が開いて、南側の水路へ余剰水を排水する。

A さん宅の嵩上げ

昭和 44 年に 1m 嵩上げしていたので浸水しなかった。

昭和 57 年・H さん宅の再移転

昭和 57 年水害で再度被災し、赤坂に再移転した。

昭和 57 年・平成 25 年 氾濫水による浸水被害<中手川>

標高が低いため、氾濫水が国道の方へ回り込むようにして東へ流れた。

一時的に、三叉路付近の道路がすべて冠水するほど浸水した。

平成 25 年台風 18 号被災時
(D 氏提供写真)

B1

B2

懸念事項

周辺で地盤が最も低く、中手川堤防と国道に囲まれているため、排水不良で浸水しやすい。

昭和 57 年・平成 25 年・中手川の溢水

右岸側の堤防の最も低い箇所から溢水した。

中手川の付け替え

蛇行していた流路を、昭和 28 年水害後に直線化した。

中手川の改修

昭和 31・32 年頃から 35・36 年頃にかけて、堤防の内側の法面を削り從来より断面を広げ、内法にコンクリートブロックを 5 段積んで補強した。

懸念事項

砂の堆積により水位が高くなりがちである。増水時には、県道の護岸が削られやすい。

平成 25 年・信楽川の溢水被害

右岸側の護岸の一番低い所から溢水した。

増水した信楽川の水流により、県道 138 号線（信楽上野線）の川沿いにある歩道が崩壊し、しばらく通行できなかった。

平成 25 年・信楽川の水防活動

地区的役員と消防が、溢水対策として土のうを積んだ。

昭和 57 年・平成 25 年 大戸川の排水不良による浸水

大戸川の増水で排水困難となり、田んぼが一時的に浸水した。これによって国道南側の中手川の氾濫水も排水できなくなり、田んぼが一時的に浸水した。

ただし、大きな被害を受けたわけではない。



平成 25 年・江田橋付近の田んぼが浸水している様子

大戸川の改修

かつては堤防が低く、現在の中手川の堤防ほどの高さであった。

現在の堤防は昭和 35 年頃に改修されたもの。

堤防の内側の法面を削り從来より河川断面を広げ、内法をコンクリートブロックで保護した。

国道 422 号線

○現在の国道 422 号線は昭和 47 年頃に建設されたもので、以前は道路の線形が大きく異なっていた。

○かつての左岸堤防跡の天端は、神山地区の方の生活道路として使われていた。

大戸川（神山地区内）左岸堤防

かつての堤防は右岸側が高く左岸側が低くなっていた。昭和 28 年水害後、神山社～旧大戸川橋（神山地区内）の左岸堤防を改修し、右岸堤防と同じ高さにした。